

そろって吉報 胸躍る「春」



センバツ出場が決まり、満面の笑顔で喜ぶ八学光星ナイフ
11月26日午後3時55分ごろ、八戸市

光星、安堵から満面笑顔に

青森県勢2校 センバツ決定

両雄がそろって聖地へ。26日に行われた第96回選抜高校野球大会の出場校を決める選考委員会で、八戸学院光星と青森山田の青森県勢2校が選ばれた。光星は5年ぶり11度目、青森山田にとっては8年ぶり3度目の出場。両校に待ちに待った吉報が届くと、ナイフたちは喜びを爆発させた。開幕まで残り2カ月。選手たちは憧れの大会に向けて、決意を新たにしていた。

【1ページに本誌】
面校は昨秋の東北大会決勝で激突し、熱いライバル対決を展開した。地区のセンバツ出場枠が今年から3に増えたため、上位2校に入ることが、オンラインで選考委員会の発表の様子を見守った。一般校は北から順に発表され、3番目に校名が呼ばれると、「よし」と声を響かせ、集まった学関係者からは拍手が沸き起こった。

その後、中村良寛校長が中庭で正式決定の知らせを待つナイフの元へ。センバツの出場決定を伝えると、歓喜と共に帽子を高々と投げ、喜びを表した。安堵の表情。

秋は主力としてプレーした小笠原由宇選手(八戸東中出)は「甲子園の舞台に立つことは夢だった。すぐ練習を大事にし、大会では初戦から全力で楽しみたい」と声を弾ませていた。

一方、青森山田ナイフにも喜びが広がった。この日、青森市は雪の一日だったが、吉報を受けた後、選手たちは同校グラウンドに集まり、歓喜の輪を作った。

捕手の橋場公祐主将(むつ市出身)は「実際に呼ばれてほっとした」と笑顔。外野手の駒井利朱夢選手(平和市出身)は「日本一に向けて一日一日の練習を大事にし、大会では初戦から全力で楽しみたい」と声を弾ませていた。

(取材班)